

日本再生のカギ

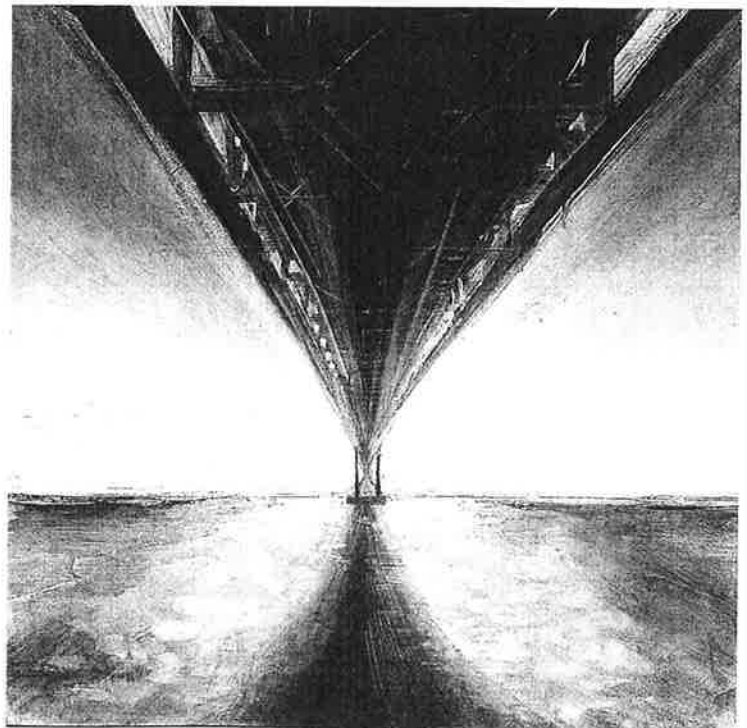
世界の鼓動

田中 均

の前で開陳しなければ、健全な国民世論は育たない。

国の安全保障やエネルギー安全保障など、国家として担保すべき利益についての科学的議論が欠けているのではないか。反基地や反原発、あるいは尖閣問題に絡む反中といった議論は、強い世論の支えを得て勢いを増すと、それに抗する議論が難しい雰囲気となる。

識者はプロフェッショナルな議論を展開すべきであるし、政府内において専門家たる官僚が政治的議論の前に黙りこくるといったようなことがあってはならない。そういう意味で最終的な判断をする政治家と専門家たる官僚の役割分



画・onyx

開かれた国際協調こそ

担も重要になる。

△世界的変化を認識し、中国と建設的に向き合う包括戦略を、世界は大きく変わった。日本の「失われた20年」の間に、年10%を超える成長を遂げた中国は日本を国内総生産(GDP)で追い越し、政治経済的影響力も凌駕している。とりわけ2010年から

日本の政治やメディアの報道が、年を追うごとに世論迎合となっていくのに強い危惧をもつ。国民目線で物事を考えることは重要ではあるが、科学的な議論を国民

の中国は、南シナ海や東シナ海などでの海洋戦略を中心に攻勢を強めている。韓国も、いろいろな産業分野で日本を超える競争力をもつに至っている。日本はこの地域で圧倒的な先進国であり、米国の同盟国であるがゆえに大きな力をもっている。これらと錯覚してはならない。これから何よりも重要なのは、

中国と建設的に向き合う戦略である。急速に台頭した中国は、国内に極めて大きな課題を抱えている。格差の是正、汚職撲滅、環境対策など、取り組みに失敗すれば情報化が進んだ今日、国内の不満は大衆運動に繋がっていくのだろう。もはや「東アジア共同体」といった夢を語るのではなく、米国

を巻き込んだ安全保障、日米中軍事信頼の醸成、東アジア経済統合・エネルギー協力といった、異なる機能ごとの枠組みを構築する「重層的機能主義」の考え方で能動的な外交を展開すべきである。

△偏狭なナショナリズムを排し、国を開いて国際協調主義を、周辺の力が増強し、日本が脅かされているといった認識は偏狭なナショナリズムを生みかねない。これが昂進すれば、日本は地域で孤立する。相対的に国力が低下した日本は、国際社会との結びつきを強める必要がある。

日本が先進民主主義国であり、欧米社会と同じ価値で結ばれていることは、日本の強みである。韓国、豪州、東南アジア諸国連合(ASEAN)、インドなどのパートナーシップも極めて重要である。環太平洋パートナーシップ協定(TPP)は安倍晋三首相の訪米により、交渉参加に向けて大きく舵が切られた。農業を守るという発想ではなく、日本の農業の効率性を高め、早急に締結することが日本の利益である。日・欧州連合(EU)、東アジア地域経済連携協定も、早期の合意を願いたい。開かれた国として健全な国際協調主義を高めていくことが日本が国力回復のカギである。(たなか・ひとし＝日本総研国際戦略研究所理事長)